

目指すべき子ども像・求められる学校像の実現に向けて

令和元(2019)年12月

足利市教育委員会

目指すべき子ども像・求められる学校像の実現に向けて

I 趣 旨

私たちは、人口減少、少子高齢化、グローバル化、情報通信技術をはじめとした急速な技術革新など、激しく変化する社会の中で暮らしています。このような社会の急速な変化は、今後、さらに進展するものと考えられます。

こうした社会の変化を踏まえ、本市では「足利市の教育目標」を平成29年度に見直しました。国においても、平成28年度に学習指導要領を改訂し、新しい教育内容が示されました。

そこで、平成14年度以来、本市教育委員会として掲げてきた「豊かな心を持ちたくましく学ぶ 足利っ子」という目指すべき子ども像を見直し、本市の児童生徒たちが様々な社会変化を乗り越え、人生を切り拓き、社会の創り手となれるよう、「足利学校のあるまち足利」にふさわしい目指すべき子ども像、そのための求められる学校像を教育理念として決めました。あわせて、それらを具現化するために検討すべき学校教育環境を定めました。

児童生徒と向き合うすべての方々に目指すべき子ども像を共有していただき、学校、家庭、地域、行政が一体となって、その実現に向けて取り組めるよう、より効果的な教育行政を推進してまいります。

II 目指すべき子ども像・求められる学校像について

目指すべき子ども像・求められる学校像については、9年間の義務教育の目指すべき児童生徒たちの姿を、そして、目指すべき児童生徒たちを育むための学校の姿を、教育上の理念として本市教育委員会の責務において決めました。

なお、目指すべき子ども像の策定にあたり、教育基本法、第3期教育振興基本計画、新学習指導要領など国が示す資質・能力と、自学自習の建学の精神を受け継ぐ足利学校、「足利市の教育目標」、地区家庭教育懇談会での意見や本市の児童生徒の姿など足利市の実態の両面から検討しました。

1 今後求められる力

平成30年6月に閣議決定された第3期教育振興基本計画では、個人においては、「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材を育成していくこと」が重要であると謳われています。

さらに、新学習指導要領の前文では、「教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」と示されています。

本市の児童生徒たちには、生涯学習の立場に立った市民参加による「足利市の教育目標」の具現化を目指し、生涯学習の基礎を培う観点から、どのような社会にあっても、生涯にわたって学ぼうとする意欲と自ら未来を切り拓き、社会の変化に主体的に対応できる資質・能力を育成したいと考えます。

2 目指すべき子ども像

今後求められる力を踏まえ、目指すべき子ども像を次のように整理しました。

「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 足利っ子」

○具体的な子ども像

- ・目標に向かい、主体的に学ぶ子
- ・多様な価値を認め、共に生きる子
- ・困難を乗り越えられる子
- ・地域社会の一員であることを自覚する子

(1) 具体的な子ども像

ア 目標に向かい、主体的に学ぶ子

本市の児童生徒は、学校において、授業に意欲的に取り組む姿、休み時間に外に出て汗を流す姿、図書室等で本を読む姿等が見られ、明るく元気に生活しています。

その一方で、家でテレビ、ゲーム、スマートフォン等に費やす時間が長いことや自分で計画を立てて勉強することに課題があります。足利版家庭学習の手引き「学びのすすめ」を活用し、課題の解決を図っているところです。

自学自習の建学の精神を受け継ぐ足利学校、生涯にわたって生き生きと学び続けることを目指す「足利市の教育目標」があるまち足利にふさわしく、思考力、判断力、表現力などを育み、基礎的・基本的な学力を確実に身に付け、さらに自主性や探究心をもって意欲的に学ぶ児童生徒の育成に努めます。

イ 多様な価値を認め、共に生きる子

本市の児童生徒は、授業や部活動等、学び合う中で、分からないことを教え合ったり、励まし合ったりする姿が見られます。中学生ボランティアへ登録する生徒も多く、人の役に立つ人間になりたいという思いをもっています。

本市の市民憲章でも、「足利市は善意のまちです」と謳い、豊かな心をもった市民となるよう努めています。さらに、「足利市の教育目標」の基本的な考え方の中でも、「心豊かな連帯感あふれる足利市民」となることを掲げています。児童生徒には、人間関係づくりや学び合いをとおして、自分の持ち味を見出し、自己肯定感を高めるとともに、当事者の立場に立って物事を多面的・多角的に捉え論理的に考える力、国籍の違いや障がいの有無、性別に関わりなく互いの価値を尊重し認め合う豊かな心をさらに育てていきたいと考えます。

ウ 困難を乗り越えられる子

学校では児童生徒が、学期ごとに学習面や生活面のめあてを立て、自分の目標に向かって挑戦している姿が見られます。また、自分の不安や悩みを乗り越えた経験等を毎年人権作文に記しています。

本市においては、学校同和教育、人権教育を通して、自分にかかわる不安や悩み、困難を自分の力で乗り越えられる児童生徒の育成を図ってきました。さらに学校という集団生活をとおして、苦手なことでも我慢して逃げずに取り組み、感情をコ

ントロールできる児童生徒の育成が必要です。予測困難なこれからの社会において、困難に打ち勝ち目標に向かって挑戦しようとする児童生徒には、未来をたくましく切り拓く意欲・態度を育てていきたいと考えます。

エ 地域社会の一員であることを自覚する子

児童生徒は、どこまでも一般的な存在ではなく、足利市という地域の中で育まれる具体的な存在であります。自らを育んだ足利というまちのよさを認識し、ふるさと足利に誇りや愛着をもってほしいと考えます。

3 今後求められる学校

現在、学校教育の場においては、生涯学習の基礎を培う学校教育の在り方を求め、学校教育の改善や地域に根ざした学校教育の充実に努めているところです。

新学習指導要領解説総則編においては、「小学校と中学校の接続に際しては、義務教育9年間を見通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことを目指した取り組みが求められる」と解説されています。

また、平成28年12月の中央教育審議会答申において、「これまでも学校は、教育活動の計画や実施の場面で、家庭や地域の人々の積極的な協力を得てきたが、今後、一層家庭や地域の人々と目標やビジョンを共有し、家庭生活や社会環境の変化によって、家庭の教育機能の低下も指摘される中、家庭の役割や責任を明確にしつつ具体的な連携を強化するとともに、地域と連携・協働して地域と一体となって子供たちを育む、地域とともにある学校への転換を図ることが必要である」と謳われています。

したがって、学校は、目指すべき子ども像を小・中学校間や地域と共有しその実現に向けて、児童生徒一人一人の個性（よさや持ち味）を教職員や周りの人たちが認め、励まし、伸ばすとともに、それらを発揮できる場所でなければならないと考えます。

4 求められる学校像

今後求められる学校を踏まえ、児童生徒が自分のよさや可能性を認識し、その能力を十分に発揮できる場所と捉え、求められる学校像を次のように整理しました。

「自分のよさや持ち味を、存分に発揮できる学校」

○具体的な学校像

- ・教えるべきことはしっかりと教え、学ぶべきことは根気強く学ばせる学校
- ・児童生徒の姿をしっかりと把握し、認め励ます教育を展開する学校
- ・義務教育9年間を見通し、地域に開かれた中学校区教育[※]を展開する学校

(1) 具体的な学校像

ア 教えるべきことはしっかりと教え、学ぶべきことは根気強く学ばせる学校

児童生徒が家以外で、多くの時間を過ごす場が学校であり、そのほとんどが授業です。すべての児童生徒にとって、「分かった。できた」と実感できる授業を展開する必要があります。そして、社会生活で必要となる基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせなければならないと考えます。

イ 児童生徒の姿をしっかりと把握し、認め励ます教育を展開する学校

すべての児童生徒にとって、自分のよさや持ち味を存分に発揮できるようにするためには、児童生徒が主体的に学習している姿や心を育てている姿、その前向きに努力している過程をしっかりと把握し、認め、励ます教育を展開することが重要です。

また、希望や志をもち、日々様々なことを体験しながら成長する目の前の児童生徒の置かれた状況や友達関係、不安や悩みなど、一人一人の背景まで、しっかりと把握する学校でなければならないと考えます。

ウ 義務教育9年間を見通し、地域に開かれた中学校区教育を展開する学校

児童生徒の教育は、小学校、中学校の9年間、連続して行われるものです。本市においては、各学校がそれぞれの特色を生かした教育を行っています。中学校区内において、中学校卒業時の児童生徒たちの姿を共有し、義務教育9年間を見通した一貫性、連続性のある教育内容・指導方法を工夫する必要があります。

また、児童生徒は地域の中で育ちます。地域の中に家庭があり、学校があります。目指すべき子ども像を家庭や地域と共有し、児童生徒の健やかな成長のためには、学校だけでなく、家庭・地域と連携・協働する必要があります。ふるさと足利を愛し、未来を担う足利っ子を育成する共通理念のもと、家庭教育、社会教育とともに、目指すべき子ども像への意識の高揚へと働きかける学校でなければならないと考えます。

※中学校区教育… 中学校区内の小・中学校がそれぞれの特色を生かしながら、義務教育9年間を見通し、育てたい子ども像を共有し、小学校と中学校の教師が相互に理解を深めながら、系統性、連続性のある教育内容・指導方法を工夫する教育（縦のつながり）。また、学校と家庭・地域とが育てたい子ども像を共有し、一体となって児童生徒たちを育む教育（横のつながり）。

これら縦のつながり、横のつながりを重視した教育。

III 学校教育環境の充実に向けて検討すべき事項

学校における児童生徒を取り巻く教育環境を、人的な環境、物的な環境、教育の内容にかかわる環境の観点から、目指すべき子ども像、求められる学校像を実現するために特に検討しなければならない事項を定めました。

1 教職員の適正な配置

学校における最も重要な教育環境は、教職員です。

自主性や探究心をもって意欲的に学ぶ児童生徒を育てるために、また、自分の持ち味を見出し、自己肯定感を高めるとともに、当事者の立場に立って物事を多面的・多角的に捉え論理的に考え、互いの価値を尊重し、認め合える児童生徒を育てるために、一人一人の背景まで、しっかりと把握し、個に応じたきめ細やかな指導に努める必要があります。

このような教育を展開するために必要な教職員の適正な配置を検討します。

2 施設・設備の整備

児童生徒にとって学校は安全・安心な場所でなければなりません。また、ユニバーサルデザインにも配慮した教育環境の整備が求められます。そのための施設・設備の整備について検討します。

さらに、すべての児童生徒にとって「分かった。できた」と実感できる授業を展開するために、個々の児童生徒にとって最も適した教育を行うことが必要です。

そのための一つの手段として、教育の ICT 化に向けた環境整備を検討します。

学校には学習に対する興味・関心やものの見方・考え方・学習経験などの異なる様々な児童生徒たちが在籍しています。すべての児童生徒の力を最大限引き出すためにも教育の ICT 化に向けた環境整備は大きな可能性があり、今後必要不可欠であるにとらえています。

3 学校の適正規模・適正配置

目指すべき子ども像を実現するためには、児童生徒に自主性や探究心をもって意欲的に学ぶ力、人間関係づくりや学び合いをとおして、自分の持ち味を見出し、自己肯定感を高めるとともに、互いの価値を尊重し、認め合える力、苦手なことでも逃げずに取り組める力、感情をコントロールできる力などのたくましく生きる力を育てることが必要です。

これらの資質・能力を育成するために、人口減少の進展に伴う児童生徒数の推移を中・長期的に推定し、多様な人達と協働しながら考えを深めたり、新しい発見をし、喜びを見出したりすることにふさわしい学校の適正規模・適正配置について検討します。

4 中学校区教育の推進

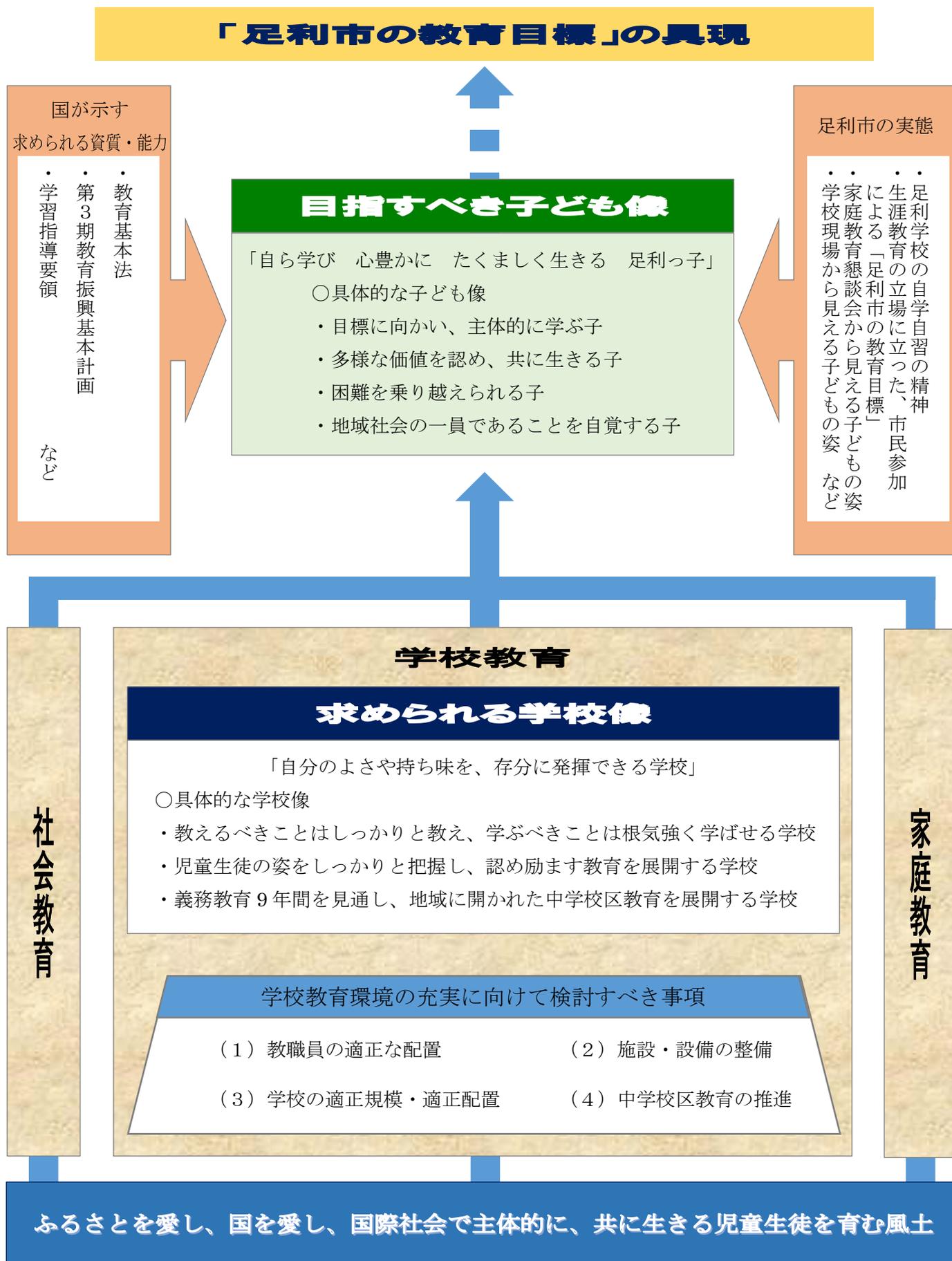
家庭の教育力や地域とのつながりが変化し、社会状況が急激に移り変わる中、学校においては、小中学校のより一層の連携・協働、地域に開かれ地域とともに歩む学校づくりが求められています。

具体的には、学校は義務教育9年間で育てたい児童生徒の姿を小中学校間や家庭・地域と共有し合い、家庭学習あるいは読書活動、学習規律や基本的な生活習慣など、9年間を見通した系統性・連続性のある教育内容や指導方法の工夫が考えられます。

また、教職員同士の合同研修会や授業参観などによる交流、合同の行事や部活動交流など児童生徒同士の交流も考えられます。さらには、学校と地域とが連携・協働し、地域の教育力を学校に、また学校の活力を地域へという地域とともにある学校づくりに努める必要があります。

このように小中学校間の系統性・連続性を生かした地域に開かれた中学校区教育の推進について検討します。

「目指すべき子ども像・求められる学校像の実現に向けて」のイメージ図



目指すべき子ども像・求められる学校像の実現に向けて

令和元(2019)年 12 月

足利市教育委員会